

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	第	号
------	---	---	---

氏 名 金 愨智

論文題目 「韓流」をめぐる女性たちの文化実践
—日本女性ファンのオーディエンス・
エスノグラフィーを用いて

論文審査担当者

主 査	名古屋大学准教授	金 相美
委 員	名古屋大学教授	星野幸代
委 員	名古屋大学教授	松下千雅子
委 員	名古屋大学教授	浮葉正親

本論文は、トランスナショナルな文化を消費する韓流女性ファンの能動的な文化実践の諸相についてオーディエンス・エスノグラフィー方法論を用い、彼女たちの文化実践が国家や民族、システム、ジェンダーなどが偏在化されている社会の中で如何なるせめぎあいが行われているのかについて批判的カルチュラル・スタディーズの観点から検討したものである。

本論文の概要

序論では、主に、研究問題の設定、目的について述べている。特に、(1)「韓流」に対するネガティブなまなざしが一部のメディアにより支配化され、政治的論争と絡み合い「嫌韓(「韓国嫌い」の略語)」という排他的ナショナリズムが高まるある種の支配コードの存在が背後にあることについて指摘している。(2)これまで日本で行われた「韓流」のオーディエンス研究は中高年女性を中心に行われていることについて批判し、若年層まで裾野を広げている今日の韓流女性ファンたちの文化実践に関する研究が必要であることを主張した。

第2章では、サブカルチャーの受容と社会とのせめぎあいについて、最も有意義な示唆を提示している研究方法であるカルチュラル・スタディーズ(=文化研究)について概観し、本論がいかなる方法で韓流に適用できるのかについて考察している。韓流女性ファンの文化実践とせめぎ合いの背景について、韓流オーディエンスが様々な社会権力の不平等な配分の中で従属性を文脈付けられた存在であることから概観している。グローバル時代において、異文化との出会いは、国や階級、ジェンダーなどの違いに起因する様々なレベルの抵抗や葛藤を醸し出す一方、変容と理解の過程を経て新たな可能性を生み出している。特に、本論文は、ジェンダー的視点に立ち、女性たちが能動的にトランスナショナルな文化を消費し、多面的アイデンティティを形成・エンパワーメントするプロセスについて検討している。日本における「韓流」の消費は、「東アジア」や「韓国」という他者との衝突を引き起こし、ナショナリズムを高潮させる一方で、女性を中心に受け入れられながら様々な意味及び可能性が生み出されていることが指摘されている。

第3章では、本論が韓流の文化研究(カルチュラル・スタディーズ)のために採用した方法論であるオーディエンス・エスノグラフィーについて概観・考察を行っている。オーディエンス・エスノグラフィーとは、オーディエンスがポピュラー文化を消費する日常生活のなかの経験を記述し、考察する質的研究方法である。オーディエンス・エスノグラフィーを用いた諸研究によってオーディエンスの日常生活の実践へ関心が復権したことが示され、この方法論の有効性について述べている。本論は、研究者との相互行為によって対象者の日常生活における日常的・経験的データが産出されるインタビュー調査を用いてその結果を分析している。インタビューにおいては、研究者とインタビューの両者が協力し、議論が生み出されるダイナミックなプロセスが含まれており、特定の文化実践において対象者本人が実感・経験する情緒的側面における変化について直接的発話が再現されている。本論文では、サンプリングした韓流女性ファン12名に対するインタビュー調査を通して、日常的・経験的データを提示し、彼女たちの様々な社会関係のなかで「韓流」を通じた文化実践がいかなるせめぎ合いを示しているのかについて明らかにする。

第4章では、韓流女性ファンに対するオーディエンス・エスノグラフィー研究結果について分析している。「韓流」を通していかなる文化実践を行っているのか、その特徴を分析した結果、(1)トランスナショナルな「韓流」と自国文化の差異を享受：彼女たちは常に「韓流」と既存文化と比

較しながらその差異を消費しており、その差異を生活と積極的に関係づけながら受け入れ、トランスナショナルなポピュラー文化のファンとして変貌していくことを明らかにした。(2) 欠如しているセクシュアリティの補完：今日日本男性は、セクシーさや強靱なイメージが消え去られており所謂草食系男子が増えていることが指摘され、韓流スターにおいて示される「完璧な男性性」を通して彼女自身の欲求を満たしている姿が示されていた。(3) 私との関連性：韓流ファンは韓国ドラマや K-Pop アイドルを自身の日常生活に深く関連付け消費することでリアルなものとして共感し、代理的な満足を得ていた。(4) 異文化への共感：「韓流」は、東洋圏文化として、人物と人間関係、社会的背景などが日本と類似している。彼女たちは日本のアイドル文化と混淆した K-Pop を、自身の日常生活のなかに抵抗なく受け入れていた。(5) インターネットを通して文化資本を習得：双方向的なコミュニケーションが可能であるインターネットを通して、独特なファンダム文化が創造され、様々な分野の文化資本を習得していた。(6) 「完コピ」：彼女たちは自身が属した社会のあらゆる所で、ファン同士で相互作用しながら、ダンスという高度な技芸を生かした創造的ファンダム文化を生産し、それらを享受していた。

第 5 章では、東アジアの政治的紛争により、ナショナリズムが高まる社会構造の中で、韓流女性ファンが自身を他者化させる支配コードといかなるせめぎ合いを表しているのかについて分析した。第 4 章で明らかにした彼女たちの文化実践の価値が矮小化されることに批判的な視点を持ち、韓国に対する認識と政治的論争に関する実証データの分析結果を取り上げ、支配コードについて検討した。2011 年後半から深化する日韓の政治的対立が、国内のナショナリズムと保守的性向を仰いでいることを明らかにし、それが彼女たちの文化実践にも疲れや不安、歯がゆい思いなどの複雑な感情をもたらしていることを示した。

結論では、本論文の要約の整理を行った後で、知見を述べている。韓流ファンの能動的な文化実践は、支配コードによって他者化されることを批判的に検討し、その際に生じるせめぎ合いと「私事化」戦略について明らかにしている。本論文は、オーディエンス・エスノグラフィー方法論を用いて彼女たちが、その支配コードの中でも「私事化」の戦略を用い自身の文化的趣向に積極的に向き合いながらトランスナショナルな「韓流」を享受している。その過程の中でエンパワーメントされたファンダム文化によって、独特な韓流ファン文化が維持されていく能動的な文化実践について考察した。

本論文の評価

本論文の学術的意義として、(1) 韓流女性ファンに対するエスノグラフィー研究を通じて、貴重なオリジナルデータの収集・蓄積ができたこと、(2) 韓流というサブカルチャーの受容と波及課程及びオーディエンス研究に関して斬新な視点が提示することによって、アジア的文脈に即したカルチュラル・スタディーズの実践を可能にしたこと、(3) 研究対象の裾を広げたこと、つまり、様々な社会的文脈におかれている日本の韓流女性ファンがトランスナショナルな異文化に対するアクティブな受容者であり、新たなグローバルコンテンツのデコーダーとして位置づけられたことも高く評価できる。

本論文の社会的意義について述べる。女性は制限的社会的布置によりマージナルなグループに転落しがちやすいが、サブカルチャーの受容においては、男性よりもむしろ柔軟な姿勢を示す積極的

別紙 1 - 2

な文化主体であり、とりわけ幅広い異文化理解を示している。日本の韓流女性ファンの文化実践は、今も尚葛藤が続いている東アジア問題を平和的解決に向けての民間レベルでの努力のあり方について有意義な示唆点を提示している。国際化・情報化が進み国際交流が活性化することは確実であり、異文化摩擦状況や異文化不適應からのトラブルも頻繁に生じうると考えられますが、そうした状況において、本研究は、いま緊急に解明すべき社会的課題に強く関連していると言える。

一方、下記の問題点が審査委員によって指摘されている。

1. 研究方法として採用したエスノグラフィー研究法は、結果の一般化が担保されるものではなく、その目的で行われるものではないということは分かっているものの、今回インタビューの対象の韓流女性ファンのサンプリング方法や数など、形式的な側面については今後より綿密な検討が必要であるだろう。
2. サブカルチャーの消費が如何なる過程で女性のエンパワーメントにつながりうるのかについて今後議論を深めてほしい。
3. データの記録・蓄積に貢献するためにもオーディエンス・インタビュー調査のテープ起こし全文を付録として論文につけることが強く求められた。
4. 第4章で取り上げられている“完璧な男性性”について補足説明を注釈などで追加すると良い。
5. 本論が採用している「兼韓」と言うタームは「反韓」とはどのように違うのか、両タームの定義を注釈などにおいて解説した方が良い。

上述の点に関しては、改善の余地があるものの、金 愨智氏の研究者としての資質が十分に認められ、将来の成長と発展が期待される。以上の評価より、論文審査委員は全員一致して、本論文が博士学位を授与されるに値するものであると判断した。